

## IV 所見

今月は、全体的にみて、「B:できていた」とする評価が多く見られた。また、「5:校内では停止礼をする」の項目において「D:まったくできていない」との評価がみられた。また4月の月間目標の同じ項目で比較すると、「3:授業時に教養を実践する」、「5:校内では停止礼をする」のそれぞれ共通な2項目とも大きく評価を下げている。

数字だけ見れば残念な結果であり、1年間の取り組みが功を奏していないと言える。しかし、今月は教員自身の自己点検表により指導状況をチェックすることができ、それだけ意識が高まった結果、以前より厳しい目で生徒の状況を見ることができたのではないかと考えられる。これらの評価が、今まで以上に現状を反映しているといえるであろう。

今回の結果で「3:毎授業時に教養を実践する」の項目における評価が思わしくない点が気になる。「教養」はあらゆる機会を通じて行わなければならない、特に授業において生徒も意識をもって臨まなければならない。教員も生徒一人ひとりを見る機会でもある。それらの事を考えると、ここはもっと高評価になるべき項目である。毎日の授業において教養を疎かにしてしまうことで、教養が身につかず定着しない原因の1つになっている。このままだと、就職に、あるいは面接に強い播磨の伝統が、崩れかねない。今回の結果糧として、教養のさらなる充実にむけて全教員が1つとなり、機会指導を徹底していかなければならないと感じた。



